

小学校英語教育に対する生徒・保護者の 意識調査：山梨県 I 中学校の場合

北 條 礼 子*・松 崎 邦 守**
(平成15年4月30日受付；平成15年6月16日受理)

要 旨

本研究の目的は、小学校時代に授業あるいはクラブ活動における英語活動経験の有無により、中学生とその保護者の小学校英語に対する意識に違いがあるかどうかを明らかにすることである。2002年11月に山梨県公立 I 中学校において、中学1年生163名、その保護者108名を対象に5段階尺度形式のアンケート（生徒用は41項目、保護者用は43項目）を実施した。調査の結果、生徒は小学校時代の英語経験による差はほとんどみられなかったが、小学校時代に英語経験のある子どもの保護者は、小学校での英語教育について期待と関心が強いことが明らかになった。

KEY WORDS

English at elementary school 小学校英語 parents 保護者
English activities 英語活動 survey 調査研究

1. 研究の背景

「平成14年度自治体調査」によると、全国の公立小学校22,847校中、全体の56.1%にあたる12,806校が第6学年において「英会話活動」を実施している。平成14（2002）年4月から現学習指導要領が正式に実施され、同活動に取り組む公立小学校が今後ますます増加していくものと予想される。また、文部科学省は、既に「英語を教科として行う研究開発校」を平成12年度より指定し始め、小学校における「英語科導入」に向けて大きく動き始めている。以上を踏まえると、「英会話活動」の実情や同活動をさらに推し進めて教科として英語教育を導入することに対する児童および保護者の意識を把握することが必要であると考えられる。ところで、公立小学校における「英会話活動」および「英語科の導入」に関して、小学校児童・保護者ならびに中学校生徒・保護者を対象とした意識調査は数が少ないのが現状である。著者らは将来、調査の規模を拡張し、一自治体の全児童・保護者を対象とした包括的な意識調査を計画しているがそのための調査項目も現在のところ、十分に吟味されているとはいえない状況にある。

2. 研究の目的

本研究の第一の目的は、小学校時代に授業あるいはクラブ活動における英語活動経験のある

* 学習臨床講座

** 千葉県沼南町立高柳中学校

中学生が、小学校英語をどのように捉えているかを明らかにすることである。

本研究の第二の目的は、小学校時代に授業あるいはクラブ活動における英語活動経験の有無により、中学生の現在の英語学習に対する意識に違いがあるかどうかを明らかにすることである。

本研究の第三の目的は、小学校時代に授業あるいはクラブ活動において英語活動を経験したことのある生徒の保護者が、小学校英語をどのように捉えているかを明らかにすることである。

本研究の第四の目的は、小学校時代に授業あるいはクラブ活動における英語活動経験の有無により、その保護者にとって現在の英語学習に対する意識に違いがあるかどうかを明らかにすることである。

3. 研究の方法

- 3.1 対象者： 山梨県公立 I 中学校 1 年生 163 名（回答数 187 のうちの有効回答数）
（小学校英語経験者 63 名，未経験者 100 名）
ただし、本調査の対象者は小学校での英語活動とはいえ、1 年に 2 度の経験である。
山梨県公立 I 中学校 1 年生保護者 108 名（回答数 120 のうち有効回答数）
（小学校英語経験者保護者 39 名，未経験者保護者 69 名）
- 3.2 測定具： 生徒，保護者用どちらも 5 段階尺度形式のアンケート。
生徒用アンケートは「小学校での英語の活動」に関する 20 項目，「現時点での英語学習」に関する 21 項目の計 41 項目。
保護者用アンケートは自分の子どもの「小学校での英語の活動」に関する 20 項目，「小学校での英語，外国文化を体験的に学ぶこと」に関する 1 項目，「『教科科として英語』を学ぶことに関する 1 項目，「現時点での英語学習」に関する 21 項目，の計 43 項目。なお，以上の項目は土田(2000a)を参考に，松崎(2002)の項目を一部修正したものである。
- 3.3 実施時期 2002 年 11 月
- 3.4 手続き： 生徒については集団調査で約 10 分間で実施した。保護者については，学級担任を通してアンケート調査を依頼し，生徒が家庭に持ち帰り保護者が回答し，その後生徒が学校に持参した。
- 3.5 分析方法 分散分析

4. 研究の結果と考察

4.1 児童の場合

4.1.1 小学校での英語活動について

調査の対象となった生徒全 163 名のうち，小学校時代に英語活動を経験したことのある生徒は 63 名であった。この 63 名が同英語活動についてどのように思ったかについて回答した 20 項目の平均，標準偏差を求めたが，その結果は表 1 に示すとおりである。

表 1 をみると，平均が 3.0 を越えている項目は項目 3 の「『英語の活動』で，英語のゲームを

表 1：小学校における英語活動経験者による小学校の「英語の活動」に関する意識 (N=63)

項目	項目内容	平均	SD
1	「英語の活動」で、英語会話ができてうれしかった	2.56	1.24
2	「英語の活動」で、英語の歌を歌ったのは楽しかった	2.30	1.33
3	「英語の活動」で、英語のゲームをしたのは楽しかった	3.38	1.47
4	「英語の活動」で、ALT の先生と英語で話すことは楽しかった	2.56	1.32
5	「英語の活動」で、日本人の先生と英語を話すことは楽しかった	2.46	1.15
6	「英語の活動」で、友達と英語で話すことは楽しかった	2.43	1.25
7	「英語の活動」で、外国のことを知ることは楽しかった	2.56	1.40
8	「英語の活動」では、習った英語を進んで使おうとした	2.43	1.40
9	「英語の活動」では、先生のあとについて英語を進んで声を出して練習した	2.78	1.48
10	「英語の活動」をもっとやってみたかった	2.38	1.29
11	「英語の活動」で習った英語を中学校で役立てようとしている	2.52	1.31
12	「英語の活動」で習った英語は中学校で役立っている	2.49	1.34
13	「英語の活動」で学習したことは、英語の発音に役立っている	2.40	1.30
14	「英語の活動」で学習したことは、英語を聞くのに役立っている	2.43	1.30
15	「英語の活動」で学習したことは、英語を話すのに役立っている	2.38	1.31
16	「英語の活動」で学習したことは、英語の文法を理解するのに役立っている	2.32	1.19
17	「英語の活動」で学習したことは、英語を話す人々の生活や文化を理解するのに役立っている	2.33	1.19
18	「英語の活動」は小学校 1 年生から行ったほうがよい	2.22	1.40
19	「英語の活動」は小学校 3 年生から行ったほうがよい	2.08	1.24
20	「英語の活動」は小学校 5 年生から行ったほうがよい	2.43	1.43

したのは楽しかった」の1項目のみであった。その他の19項目についてはすべて平均が3.0を下回っていた。この19項目をみると、まず、活動内容の英会話、英語の歌、ALT の先生と英語で話したことについて、特別楽しかったと感じていないことがわかった。次に、小学校での英語活動は中学校英語に、発音、聞く、話す、文法を理解することなどに役立っているとは思っていないこともみとれる。さらに英語活動を小学校の何年生から始めるのがよいかについても、どちらかという意識が低いことがわかった。

以上から、小学校時代に授業あるいはクラブ活動における英語活動を経験したことのある中学生が、小学校英語に対してどのような意識を抱いているかであるが、英語のゲームが楽しかったという項目以外、平均がすべて3.0以下であり、小学校での英語活動をどちらかという否定的に捉えていた。本研究の対象者は、小学校で英語の活動を経験したといっても年間2時間という数少ない経験であり、この少なさが小学校時代の英語を肯定的に捉えていない理由であると推測される。

4.1.2 現在の英語学習について

現在の英語学習に関する21項目について、対象者全員の163名、小学校における英語活動経験者63名、未経験者100名による各項目への回答についてそれぞれ平均、標準偏差を求めたが、その結果は表2に示すとおりである。

さらに、小学校における英語の活動を経験したかどうかで現在の英語学習に対する意識に違いがあるかどうかを明らかにするため分散分析を行ったが、その結果は表3に示すとおりである。

表3から、現在の英語学習について、項目18の「小学校で簡単な英語の単語を読む学習をし

表 2 : 生徒全員と小学校における英語活動経験の有無別による現在の英語学習に関する意識の平均と標準偏差

項目	項目内容	全員 (N=163)		経験者 (N=63)		未経験者 (N=100)	
		平均	SD	平均	SD	平均	SD
1	英語は将来必要だと思う	3.63	1.31	3.67	1.33	3.61	1.29
2	英語を学習することは楽しい	2.61	1.31	2.51	1.29	2.68	1.32
3	英語を学習することが好きである	2.55	1.30	2.46	1.27	2.61	1.32
4	英語を話せるようになりたい	3.60	1.35	3.62	1.38	3.58	1.33
5	学校の英語の授業では、英語を積極的に聞こうとしている	2.82	1.22	2.63	1.20	2.93	1.22
6	学校の英語の授業では、英語を積極的に話そうとしている	2.52	1.19	2.46	1.25	2.55	1.16
7	テレビで英会話番組を見ている	1.29	0.71	1.32	0.82	1.28	0.64
8	ラジオで基礎英語講座などを聞いている	1.24	0.78	1.27	0.88	1.22	0.72
9	英語の歌や英会話などのテープ、CDを聞いている	1.67	1.20	1.62	1.22	1.71	1.18
10	いろいろな国の人と英語で話してみたい	3.04	1.42	3.00	1.38	3.06	1.45
11	英語で外国の人に話しかけられたら、日本語で答える	3.01	1.24	2.95	1.25	3.05	1.23
12	英語で外国の人に話しかけられたら、まず英語で答える	2.98	1.26	3.05	1.38	2.94	1.18
13	英語で外国の人に話しかけられても、何も話せない	2.92	1.33	3.05	1.38	2.84	1.29
14	外国の生活や文化にきょうみがある	2.84	1.44	2.65	1.43	2.96	1.45
15	いろいろな国の人々の考えを理解したいと思う	2.77	1.36	2.70	1.28	2.82	1.41
16	いつかは日本以外の国に行ってみたいと思う	3.99	1.36	3.97	1.45	4.00	1.31
17	日本の国の文化を学ぶことは大切だと思う	3.54	1.28	3.38	1.35	3.64	1.24
18	小学校でかんたんな英語の単語を読む学習をしてみたかった	2.74	1.37	2.51	1.23	2.89	1.43
19	小学校でかんたんな英語の単語を書く学習をしてみたかった	2.74	1.43	2.56	1.37	2.86	1.46
20	小学校でかんたんな英語の文を読む学習をしてみたかった	2.67	1.41	2.51	1.38	2.77	1.43
21	小学校でかんたんな英語の文を書く学習をしてみたかった	2.64	1.40	2.49	1.38	2.74	1.40

表 3 : 小学校における英語活動経験の有無別による現在の英語学習に関する意識の違いに関する分散分析結果

項目	項目内容	経験者 (N=63)		未経験者 (N=100)		分散分析結果		
		平均	SD	平均	SD	F _(1,106)	p	結 果
1	英語は将来必要だと思う	3.67	1.33	3.61	1.29	0.07	NS	
2	英語を学習することは楽しい	2.51	1.29	2.68	1.32	0.66	NS	
3	英語を学習することが好きである	2.46	1.27	2.61	1.32	0.51	NS	
4	英語を話せるようになりたい	3.62	1.38	3.58	1.33	0.03	NS	
5	学校の英語の授業では、英語を積極的に聞こうとしている	2.63	1.20	2.93	1.22	2.29	NS	
6	学校の英語の授業では、英語を積極的に話そうとしている	2.46	1.25	2.55	1.16	0.22	NS	
7	テレビで英会話番組を見ている	1.32	0.82	1.28	0.64	0.11	NS	
8	ラジオで基礎英語講座などを聞いている	1.27	0.88	1.22	0.72	0.16	NS	
9	英語の歌や英会話などのテープ、CDを聞いている	1.62	1.22	1.71	1.18	0.22	NS	
10	いろいろな国の人と英語で話してみたい	3.00	1.38	3.06	1.45	0.07	NS	
11	英語で外国の人に話しかけられたら、日本語で答える	2.95	1.25	3.05	1.23	0.24	NS	
12	英語で外国の人に話しかけられたら、まず英語で答える	3.05	1.38	2.94	1.18	0.28	NS	
13	英語で外国の人に話しかけられても、何も話せない	3.05	1.38	2.84	1.29	0.94	NS	
14	外国の生活や文化にきょうみがある	2.65	1.43	2.96	1.45	1.78	NS	
15	いろいろな国の人々の考えを理解したいと思う	2.70	1.28	2.82	1.41	0.31	NS	
16	いつかは日本以外の国に行ってみたいと思う	3.97	1.45	4.00	1.31	0.02	NS	
17	日本の国の文化を学ぶことは大切だと思う	3.38	1.35	3.64	1.24	1.58	NS	
18	小学校でかんたんな英語の単語を読む学習をしてみたかった	2.51	1.23	2.89	1.43	3.05	+	<
19	小学校でかんたんな英語の単語を書く学習をしてみたかった	2.56	1.37	2.86	1.46	1.76	NS	
20	小学校でかんたんな英語の文を読む学習をしてみたかった	2.51	1.38	2.77	1.43	1.33	NS	
21	小学校でかんたんな英語の文を書く学習をしてみたかった	2.49	1.38	2.74	1.40	1.22	NS	

【註】 経：英語学習経験者 未：英語学習未経験者

てみたかった」という項目についてのみ有意傾向がみられた ($F(1,106)=3.05, .05 < p < .10$)。ここから小学校で英語の活動を体験したことのない生徒は、小学校時代に簡単な英語の単語を読む学習をしてみたかったと感じる傾向があった。しかし、両者間に有意な傾向があったとはいえ、前者の平均が2.89であり、後者の平均が2.51であることから、簡単な英語の単語を読む学習への希望といっても、強い希望とは考えにくい。以上からも、小学校での英語の活動字数の少なさから、本研究の対象者である中学生にとってはほとんど小学校英語からの影響はないものと推察される。

最後に、小学校での英語の活動の影響がほとんどみられない状態ではあるものの、「英語が将来必要だと思う (項目1)」、「英語を話せるようになりたい (項目4)」、「いつかは日本以外の国に行ってみようと思う (項目16)」、「日本の国の文化を学ぶことは大切だと思う (項目17)」は比較的平均が高かった。本調査の対象者は、「英語学習が楽しい (項目2)」、「英語学習が好きである (項目3)」の平均が中立の立場より低く、英語学習をどちらかという楽しくなく、好きではないと回答しているにもかかわらず、英語が将来必要なもので話せるようになりたいと考えていることや、自国の文化ばかりでなく異文化に対して関心が強いことも分かり、現実的な英語教育と英語への思いが必ずしも一致していない姿がうかがえる。

4.2 保護者の場合

4.2.1 小学校で英語、外国文化を体験的に学ぶこと、小学校で「教科として英語」を学ぶことについて

まず、保護者に対して「小学校で英語、外国文化を体験的に学ぶこと」に関する1項目、「小学校で『教科として英語』を学ぶこと」に関する1項目について、「1：反対」から「5：賛成」までの5段階尺度形式で回答を求めた。保護者の回答結果は次のとおりである。保護者全員の108名と、子どもが小学校時代に英語の活動を体験している保護者39名、体験していない保護者69名それぞれの平均、標準偏差を表4に示した。

表4をみると、どちらの項目の平均が4.0を越えており、小学校で英語、外国文化を体験的に学ぶこと、小学校で「教科として英語」を学ぶことのどちらに対しても保護者の意識が高いことがうかがえる。

表4：小学校で英語・外国文化を学ぶこと、教科として英語を学ぶことに関する保護者の意識

項目内容	全員 (N=108)		体験有 (N=39)		体験無 (N=69)	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD
小学校で英語や外国の文化などを体験的に学ぶこと	4.51	0.90	4.72	0.83	4.49	0.85
小学校で「教科として英語」を学ぶこと	4.22	1.00	4.39	0.93	4.07	1.05

次に、表4の結果に基づき、子どもが小学校時代に英語の活動を体験した保護者と未経験の保護者の意識の違いを明らかにするため、分散分析を行った。その結果は表5のとおりである。

表5をみるとまず、小学校で英語や外国の文化などを体験的に学ぶことについて、小学校で子どもが英語の活動を体験した保護者の平均が同英語活動未経験児の保護者の平均より有意に高い傾向があった ($F(1,106)=3.34, .05 < p < .10$)。次に、小学校で「教科として英語」を学ぶことについては小学校での英語活動経験児の保護者の平均が同英語活動未経験児の保護者の

平均より5%レベルで有意に高かった($F(1,106)=4.44, p<.05$)。以上から、子どもが英語の活動を経験した保護者の方が、小学校で英語を学ぶことに対して意識が強いことがわかる。

表5：子どもの小学校英語活動経験別の小学校で英語・外国文化を学ぶこと、教科として英語を学ぶことに関する保護者の意識の違いに関する分散分析結果

項目内容	経験有(N=39)		経験無(N=69)		分散分析結果		
	平均	SD	平均	SD	$F_{(1,106)}$	p	有無
小学校で英語や外国の文化などを体験的に学ぶこと	4.72	0.83	4.49	0.85	3.34	+	>
小学校で「教科として英語」を学ぶこと	4.39	0.93	4.07	1.05	4.44	*	>

4.2.2 小学校での英語活動について

調査の対象となった保護者全108名のうち、小学校時代に英語活動を経験したことのある生徒は39名であった。同英語活動についてどのように思ったに関して、この保護者39名に回答を求めた20項目の各項目について、それぞれ平均、標準偏差を求めたが、その結果は表6に示すとおりである。

表6をみると、項目1から項目11までの平均が3.0を越えていたが、項目12から項目20までの項目は、平均が3.0未満であった。

まず、平均が3.0以上の項目をみると、項目10の「小学校での『英語の活動』をもっとやらせてみたかった」の平均が4.21を示しており、保護者の小学校での英語の活動への期待が高いことがうかがえる。また、その他の平均が3.0以上の項目からわかることは、自分の子どもが小学

表6：小学校における英語活動経験者の保護者による小学校の「英語の活動」に関する意識(N=39)

項目	項目内容	平均	SD
	お子さんが小学校のとき、：		
1	「英語の活動」を楽しんでいる様子が見られた	3.95	1.19
2	「英語の活動」について家庭で話しをすることがあった	3.79	1.15
3	「英語の活動」で学んだ英語表現を家庭で話すことがあった	3.46	1.43
4	「英語の活動」で行ったゲームの内容や様子を家庭ですることがあった	3.67	1.28
5	外国人の先生のこと(名前や出身地、趣味、学習中の様子など)を家庭で話すことがあった	3.95	1.23
6	「英語の活動」で学んだ外国の文化や習慣などについて家庭で話すことがあった	3.62	1.35
7	「英語の活動」で学んだ英語の歌を家庭で歌うことがあった	3.21	1.64
8	「英語の活動」で学んだ英語のあいさつを家庭ですることがあった	3.44	1.48
9	「英語の活動」で学んだ英語の単語が家庭での会話に出てくることがあった	3.18	1.35
10	「英語の活動」をもっとやらせてみたいと思った	4.21	1.08
11	小学校での「英語の活動」は1年生から始めた方がよい。	3.88	1.36
12	小学校での「英語の活動」は3年生から始めた方がよい。	2.56	1.47
13	小学校での「英語の活動」は5年生から始めた方がよい。	2.28	1.32
	小学校の「英語の活動」で：		
14	習った英語を中学校で役立てようとしている様子が見られる	2.77	1.40
15	習った英語が中学校で役立っている様子が見られる	2.92	1.42
16	学習したことは英語の発音の面で役立っている様子が見られる	2.64	1.40
17	学習したことは英語を聞く面で役立っている様子が見られる	2.82	1.35
18	学習したことは英語を話す面で役立っている様子が見られる	2.74	1.39
19	学習したことは英語の文法理解の面で役立っている様子が見られる	2.18	1.19
20	学習したことは英語を話す人々の生活や文化を理解する面で役立っている様子が見られる	2.77	1.40

校での英語の活動において、楽しんでいる様子がみられ(項目1)、家庭で活動そのもの、ゲームの内容、外国人の先生のこと、同活動中に学んだ外国の文化や習慣について話をすることがあった(項目2, 4, 5, 6)ということである。この結果は、実際に英語の活動を経験した中学生が英語のゲームを除いて以上の項目内容についてどちらかというとな否定的な回答をしている結果と一致しないものである。このことは、中学生の現在の英語学習に対する気持ちが肯定的とは言えないことが反映されているのかもしれない。

次に、小学校での「英語の活動」はいつから始める方がいいか、という項目(項目11, 12, 13)については、「小学校1年生から始めた方がよい」という項目11の平均が3.88であり、他の項目12の「3年生から始めた方がよい」の平均(2.56)や項目13の「5年生から始めた方がよい」の平均(2.28)より高く、分散分析とLSD法による多重比較の結果、保護者は「英語の活動」は小学校1年生から始めた方がよいと有意に強く考えていることが明らかになった($F(2,76)=14.96, p<.01$; 項目11>項目12, 13($MSe=1.88, 5\%$ 水準))。

さらに、平均が3.0未満の項目をみると、小学校での「英語の活動」は中学校での英語(英語全体、発音、聞く面、話す面文法理解の面、英語を話す人々の生活や文化を理解する面：項目15~20)に役立っている様子は特にみられないと項目内容のものであった。以上の結果は表1の同内容の項目に対する生徒の回答と同様であった。このことは本研究の対象者が小学校時代に経験した英語学習が2時間であったということからも自然な結果であると考えられる。

4.2.3 現在の英語学習について

現在の英語学習に関する11項目に関して、調査の対象となった保護者全員の108名、小学校における英語活動経験者の保護者63名、未経験者の保護者100名について、それぞれ平均、標準偏差を求めたが、その結果は表7に示すとおりである。

さらに、子どもが小学校における英語の活動を経験したかどうかで現在の英語学習に対する意識に違いがあるかどうかを明らかにするため分散分析を行ったがその結果は表8に示すとおりである。

表8をみると、まず項目1の「お子さんにとって、英語は将来必要だと思う」と項目2の「お子さんにいろいろな国の人々の考えを理解できるようになって欲しいと思う」は有意差はなかった(項目1： $F(1,106)=1.63, NS$ ；項目2： $F(1,106)=2.27, NS$)。両項目の平均がどちらの群ともすべて4.0を越えていることを考えあわせると、子どもの小学校時代の英語活動の経験の有無にかかわらず、保護者はどちらの項目内容も肯定的に捉えていることがわかる。

次に、項目3から項目11までの9項目については、すべて有意差あるいは有意傾向がみられ、全項目において子どもが小学校時代に英語の活動の経験がある保護者の平均が、同活動の経験がない保護者の平均を上回っていた。しかし、平均を考慮に入れると、英語の「ラジオ講座」や「テレビ番組」を聞いたり見たりしている子どもの様子(項目4)や英語の歌や会話をCDやテープなどで聞いたり、合わせて歌ったりする子どもの様子(項目5)はどちらかというともみられないが、小学校の英語の活動を経験した子どもの方にこの様子が幾分みられることもあると保護者が感じていた結果であった。さらに、小学校の英語の活動において子どもに学習してほしい内容として、アルファベットの読み方・書き方、簡単な英語の単語の読み方・書き方、簡単な英語の文の読み方・書き方のすべてを肯定的に捉え、この6種類の学習すべてにおいて、小学校時代に英語の活動の経験がある保護者の平均が未経験者の保護者の平均を上回ってい

表7：保護者全員と小学校における英語活動経験の有無別による保護者の現在の英語学習に関する意識の平均と標準偏差

項目	項目内容	全員(N=108)		経験者(N=39)		未経験者(N=69)	
		平均	SD	平均	SD	平均	SD
1	お子さんにとって、英語は将来必要だと思う。	4.34	0.89	4.49	0.82	4.26	0.92
2	お子さんにいろいろな国の人々の考えを理解できるようになって欲しいと思う	4.36	0.79	4.51	0.82	4.28	0.76
3	英語を学ぶことが日本の文化についても知ることに繋がると思う	3.73	1.04	4.03	1.11	3.57	0.96
4	お子さんに、英語の「ラジオ講座」や「テレビ番組」を聴いたり見たりしている様子が見られる	1.83	1.11	2.08	1.29	1.70	0.99
5	お子さんに、英語の歌や会話をCDやテープなどで聞いたり、合わせて歌ったりする様子が見られる	2.19	1.24	2.56	1.35	1.99	1.13
6	小学校で、 <u>アルファベットを読む</u> 学習をして欲しいと思う	4.19	0.96	4.44	0.91	4.04	0.96
7	小学校で、 <u>アルファベットを書く</u> 学習をして欲しいと思う	4.16	0.98	4.41	0.97	4.01	0.96
8	小学校で、 <u>簡単な英語の単語を読む</u> 学習をして欲しいと思う	3.94	1.01	4.26	0.97	3.77	1.00
9	小学校で、 <u>簡単な英語の単語を書く</u> 学習をして欲しいと思う	3.86	1.07	4.18	1.00	3.68	1.08
10	小学校で、 <u>簡単な英語の文を読む</u> 学習をして欲しいと思う	3.56	1.24	3.97	1.22	3.33	1.20
11	小学校で、 <u>簡単な英語の文を書く</u> 学習をして欲しいと思う	3.48	1.25	3.87	1.24	3.26	1.21

表8：保護者全員と小学校における英語活動経験の有無別による保護者の現在の英語学習に関する意識の違いに関する分散分析結果

項目	項目内容	経験者(N=39)		未経験者(N=69)		分散分析結果		
		平均	SD	平均	SD	F _(1,106)	p	経 未
1	お子さんにとって、英語は将来必要だと思う。	4.49	0.82	4.26	0.92	1.63	NS	
2	お子さんにいろいろな国の人々の考えを理解できるようになって欲しいと思う	4.51	0.82	4.28	0.76	2.27	NS	
3	英語を学ぶことが日本の文化についても知ることに繋がると思う	4.03	1.11	3.57	0.96	5.09	*	>
4	お子さんに、英語の「ラジオ講座」や「テレビ番組」を聴いたり見たりしている様子が見られる	2.08	1.29	1.70	0.99	2.97	+	>
5	お子さんに、英語の歌や会話をCDやテープなどで聞いたり、合わせて歌ったりする様子が見られる	2.56	1.35	1.99	1.13	5.65	*	>
6	小学校で、 <u>アルファベットを読む</u> 学習をして欲しいと思う	4.44	0.91	4.04	0.96	4.31	*	>
7	小学校で、 <u>アルファベットを書く</u> 学習をして欲しいと思う	4.41	0.97	4.01	0.96	4.20	*	>
8	小学校で、 <u>簡単な英語の単語を読む</u> 学習をして欲しいと思う	4.26	0.97	3.77	1.00	6.07	*	>
9	小学校で、 <u>簡単な英語の単語を書く</u> 学習をして欲しいと思う	4.18	1.00	3.68	1.08	5.62	*	>
10	小学校で、 <u>簡単な英語の文を読む</u> 学習をして欲しいと思う	3.97	1.22	3.33	1.20	7.03	**	>
11	小学校で、 <u>簡単な英語の文を書く</u> 学習をして欲しいと思う	3.87	1.24	3.26	1.21	6.25	*	>

【註】 経：英語活動経験者の保護者 未：英語活動未経験者の保護者

た。

以上から、小学校における英語の活動の時間がたとえ2時間という少ないものであっても、小学校で英語の活動が行われたことにより、保護者が小学校における英語教育に関心と注意を喚起されたものと推察される。「1. 研究の背景」で述べたとおり、「平成14年度自治体調査」によると、全国の公立小学校全体の56.1%にあたる12,806校が第6学年において「英会話活動」を実施しており、平成14(2002)年4月からの現学習指導要領の実施に伴い、同活動に取り組む公立小学校が今後ますます増加していくものと予想される。このような状況の下、小学校児

童の保護者の英語学習への期待はますます高まっていくものと考えられる。

5. 今後の課題

今回の調査は、対象が中学校 1 校であり、対象となった中学生が小学校時代に経験した英語の活動時間は 2 時間であった。今後は、英語の活動時間をより多く経験し中学生とその保護者を対象として、さらに調査を行っていく予定である。

引用・参考文献

- 荒川ゆり他 (1999) 「公立小学校における英語教育はどのように進めていけばよいかー小学校 (文部省指定・研究開発学校) と同学区内の中学校教員の意識調査ー」
【JASTEC 研究紀要】 18, 71-79.
- アレン玉井光江 (1993) 「親から見た児童英語教育」【JASTEC 研究紀要】 12, 3-12.
- 片桐多恵子他 (1994) 「『小学校への英語教育導入について』の公立小学校教員の意識調査ー愛知県・静岡県・岐阜県の場合ー」【JASTEC 研究紀要】 13, 109-119.
- 土田優子 (2000a) A Case Study of English Club Activities at Public Elementary Schools
上越教育大学修士論文
- _____ (2000b) 「公立小学校英語クラブにおける事例研究」上越英語研究 1, 35-47.
- 樋口忠彦他 (JASTEC 関西支部調査研究プロジェクト・チーム) (2002) 「小学校英語活動に対する中・高英語教員の態度及び意識に関する研究」【JASTEC 研究紀要】 21, 19-43.
- 北條礼子・渡邊由紀子・熊井信弘 (2002) 「公立小学校への英語導入に関する意識調査」【上越教育大学研究紀要】 21, 2, 513-526.
- _____・松崎邦守 (2003) 「公立小学校での『英会話』活動に関する意識調査」【小学校英語教育学会紀要】 3, 39-45.
- 松崎邦守・北條礼子 (2002) 「公立小学校における英語科導入に関する動向」【上越英語研究】 3, 47-68.
- _____・_____ (2003) 「公立小学校における『英会話活動』に関する意識調査ー公立小学校現職教員に対するアンケート調査をとおしてー」【JASTEC 研究紀要】 22, 101-124.
- 横山東・横山正幸 (1993) 「幼児の英語教育に対する母親の意識と体験」【JASTEC 研究紀要】 12, 12-26.

A Survey of English Activities at Public Elementary School with Students and Their Parents of I Public Junior High School in Yamanashi Prefecture

HOJO Reiko*, MATSUZAKI Kunimori**

Abstract

This study investigates whether or not differences exist between junior high school students who have experienced English activities at elementary school and those who have not, as well as between parents whose children having experienced English activities at elementary school and those whose children have not. Questionnaires with a 5-point scale format were given to 163 students of I public junior high school in Yamanashi prefecture and their 108 parents in November of 2002. The questionnaire for the students consisted of 41 items, while the one for their parents consisted of 43 items. The results showed that: ① English activities at elementary school made almost no differences for junior high school students, and ② Parents whose children have experienced English activities at elementary school showed strong expectations and concerns toward the activities.

* Division of Learning Support

** Takayanagi Junior High School, Chiba